

家庭教育支援チーム

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	沖繩市家庭教育支援チーム (呼称: 結 RIN(ゆいりん))
②活動拠点	沖繩市社会福祉センター
③活動範囲	沖繩市
④組織体制	20 人 子育てサポーター18人、保育士2人
⑤活動開始年度	平成17年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 沖繩市家庭教育支援チーム(結 RIN) (TEL) 090-6865-0159 (E-mail) oki.chubu.kosodate@gmail.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他(セミナー開催)
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容

【具体的な活動内容】

◎子育てセミナーの開催

セミナーは公共の場をお借りして、主に沖縄市で開催しています。
参加対象は妊婦さん、子育て中のお父さん、お母さんです。

年間 8 回を予定しており、毎回テーマを掲げ、講師によるテーマに沿った講話のあと、初対面の保護者同士で子育ての悩みなど、グループで話し合う時間を設け、話し合いで出た質問・疑問に講師が実体験や実例を話しながらこたえます。

ある月のテーマ「子供の能力を引き出す親の一言」では、「子供は言葉の先生として父親・母親の言葉使いをいつも聞いている。言語能力をつけていくため、親はきれいな言葉を使うようにする。【どうせ～してもダメ】といった言葉は子供の大切な可能性を捨ててしまうことになるため、使わない。常にプラスの言葉を使うようにする。」と講話。グループからの質問では「子供がなかなか学校のお話しをしてくれない」との悩みに「聞く側である【親の態度】を見直そう。夫婦でよく話し合っていますか？話し合えている雰囲気の子供に話をしやすくするので、夫婦で何もかもよく話し合うことが大切」とのアドバイスがありました。

・セミナーの様子



◎子供倫理塾の開催

子供倫理塾では、小学生を対象にした講座で「遊び」「学び」「しつけ」を三本柱に、子供達が楽しめる内容です。子育てセミナーと同時開催で、別の教室で学びます。


まず初めに子供がリーダーとなり、下記の「5アクト」を参加者で唱和。

1. あいさつは明るくハッキリ自分から
2. 返事は「ハイ」と元気よく
3. 手伝いは先にのばさずすぐ実行
4. 背筋をのばしてまっすぐに正しい心は姿勢から
5. 物は友達大事な仲間 感謝を込めてあとしまつ

6/23 開催「短歌を詠んでみよう」

その後、各月の企画内容に移ります。
昨年度は、「うどん作り」「短歌を詠んでみよう！」
「プラバンキーホルダー作り」等をしました。
こういった活動を楽しみながら、協調性、挨拶や返事の仕方、料理をした後の片付けなどを学ぶことを目的としております。



	<p>【ミーティング】</p> <p>これらの企画等を月 1 回以上の話し合いの時間を持ち、開催内容などを決めていきます。</p>
<p>④活動の成果 (活動実績がある場合)</p>	<p>【子育てセミナーに参加した方からの感想】</p> <p>「子供の悪いところを直そうとしていたけど、基本は夫婦なのだと実感した」</p> <p>「子供ともっと向き合う時間を持つと思った」</p> <p>「子供だけにお小遣い帳をつけさせるのではなく、親も家計簿をつけようと思った」</p> <p>「みんな同じ事で悩んでいると知って、肩の荷が少しおりました」</p> <p>との感想がありました。</p> <p>◎「子供倫理塾」では遊びながら学ぶことで、物への感謝の気持ち、上級生が下級生を思いやる気持ちが出てきて、グループでする活動もスムーズになりました。</p> <p>「うどんづくり」では、高学年・低学年混ぜてグループ分けし、上級生が下級生に包丁の持ち方、お皿の洗い方を指導しながら、楽しく料理する場面もありました。食べた後の片付けも皆で平等に取りかかります。</p> 
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<p><input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:)</p> <p><input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施</p> <p><input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施</p> <p>(主催の家庭倫理の会より予算を組んで頂き活動しています)</p>